

低回収率とした RO 水質 - 第2報 4.5 ヶ年経過時の水質と S₂-MG の変動 -

第 62 回 大阪透析研究会

第 49 回 日本透析医学会学術集会

和田 茂・河井里枝・宮田奈々恵・佐々木敏作¹ / 丸山禎之² (佐々木内科クリニック腎センター¹ / 大阪掖済会病院 透析室²)

【目的】 昨年の報告に続き 4.5 ヶ年経過時の低回収率(LR)にて RO 水を採取した RO 水質と RO 膜の交換による S₂-MG の推移を報告する。

【方法】 LR での RO 膜性能は透水能(FRI)、RO 水中の電導度除去率、微粒子数(PV)、ET 濃度とした。また透析歴が 10 年以上となる 5 名の患者にて S₂-MG の推移をみた。

【結果】 FRI は 33 ヶ月まで漸増し、それ以降は安定した。電導度除去率は 54 ヶ月間、98%以上を維持し、PV は 500 個/ml 以下にて推移した。ET 濃度は 42 ヶ月以降では 20EU/L 以下となり、54 ヶ月目は 5EU/L であった。高回収率で使用した RO 膜交換前 6 ヶ月間の血清 S₂-MG は膜交換 1 ヶ年前までの 6 ヶ月間の平均とでは有意(P<0.05)に上昇した。但し、膜交換後の 54 ヶ月間の S₂-MG 濃度に変化はみられなかった。

【結論】 低回収率にて採取した RO 水質は良好な水質を長期間維持でき、RO 膜の使用期間の延長のみならず、生体にも好影響をもたらすと推察された。